

2019年度 第59回 米子市美術展覧会(市展) 部門別講評

洋画部門

自己表現を一つの作品として仕上げる力強さ、工夫などそれぞれに立場を考えて絵画をつくり上げる努力は大変なものだということを作者自身が一番知っていることだと思う。この様な作業過程の中で立派に改装された会場に飾ることは誇りでもあるが、反面自分を捨てることの重大さを認識させる。市展へ出品されたみなさんは、並べてみて自分の表現への力量を知ることなど多数の要点を感じている。とにかく勇気を出して挑戦してみよう。これからの市展への発展へ力強く共に汗を流してみよう。洋画部門の出品者は、たくさんの悩み、苦しみの中で頑張っています。

(評者:田中 良一)

日本画部門

出品数は減少したが、多様な作風の中に新しい可能性が感じられて、好感ある作品が多かった。

(評者:松岡 託司)

書道部門

元号初年度の市展に、ここ五年間で最多の出品数になったこと、心強く感じました。作品の印象は、漢字、仮名、漢字と仮名交じりの書、篆刻と各分野の中で、中国の秦代以前の文体で大字を表現する作品、或いは漢字と仮名交じりの書(調和体)が入賞したことは、特筆すべきことです。作品の出来は、以前よりも一段と進歩工夫が見られました。

(評者:船原 濤軒)

写真部門

応募数はほぼ昨年並みであるが、あと十数点の応募数を期待したい。応募作品では、主題のはっきりしたものが多くレベルが高いが、ただプリントの調子が今一つ不十分な作品が目立ち、入賞を逃したものが散見された。

(評者:福島多暉夫)

工芸部門

例年になく今年の出展点数は多くて賞を選ぶのもなかなか大変でした。陶芸と木彫はおおくの出品が見られますが、布物に関しては皆無の状態です…。他の部門は分かりませんが、若い方の出品が無くて工芸作品を造るという事に関心が無いのかと…。新しくチャレンジして出品して戴いた方々もこれぞ!!という思いで出品された意気込みの見られる作品もありました。残念な作品、これも工芸と言う様な物も合せて展示します…。皆様のご来館でそれぞれ評価して下さい。

(評者:安藤 釉三)

彫刻部門

昨年より出品者、出品点数とも増えて嬉しい限りです。作品を見ても、木、粘土、発泡スチロールなど素材もバラエティーに富んで賑やかな展示会場となりました。どの作品も創意工夫されたものばかりですが、なかには「彫刻」として出品することが本当に相応しいのかと首をひねる作品も見られ、どの部門に出すのが一番良いのか吟味した上で出品していただきたいと思います。今年も昨年に続き、若い感性あふれるカラフルで独創的な作品が出品されています。このような新しい感性の作品が、さらに多く出品されることを期待しています。

(評者:永江 靖幸)